



森のなごま

2012年 3月号

NO. 47 (継続192)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

かながわ森林インストラクターの技術向上を目指して 森林インストラクターブラッシュアップ研修（人工林の間伐作業）

森林部会 浦野 稔



（財）かながわトラストみどり財団主催による神奈川県森林インストラクターの研修が平成24年2月4日（土）に実施されました。県民参加の森林づくり活動の指導者として「①間伐技術の向上、②ボランティア参加者に対する作業指導方法の向上、③作業中の安全対策の徹底」を目的に54名のインストラクターが真鶴町県行造林地（真鶴町岩）内のヒノキ林で実習を行いました。

三つの研修目的を効率的に実践するために今回は「ロールプレーイング（役割実演法）」で行うことにしました。参加者を8班に分け、それぞれの班で「インストラクター」「ボランティア参加者の作業員」「作業員以外の参加者」のそれぞれの役割を順繰りに演じてもらいました。「作業員」は選木から伐倒までを行うことで間伐技術を再確認する、「インストラクター」は「作業員」や「参加者」に技術的な解説や危険につながる行為・行動に注意を与え参加者の安全に配慮する、そのようなトレーニングになりました。

往々にして、ボランティア活動で指導するインストラクターは技術的な指導に夢中になりがちです。しかし間伐作業のボランティア参加者の多くは、森林作業に参加したという満足感、達成感を求めている技術の習得が目的ではないことを理解し、技術的なことよりも参加者の動きや配置に常に注意を払い安全を徹底することが重要となります。今回「参加者」役の人にわざと危険に繋がる行動を取ってもらうことにしたのもこのことを認識してもらうためです。そのためには指導者である我々は何が危険な動きか、どこが危険な位置なのかを理解していなければなりません。基本に立ち返って何回も経験することが求められます。今回の研修はその一つです。繰り返し研鑽を重ねましょう。

もう一つ今回は滑車の使用法を習得することが加わりました。スリングと呼ぶ2m程の平編みのロープを併用します。間伐対象木が掛かり木になった時に威力を発揮します。実習場所は必ず掛かり木になるような手入れ不足林ですが、主催者が準備したものを実際に使い、有効な道具であることを実感出来ました。ただしスリングを介在するため支点となる滑車（この場合は「定滑車」となる）の位置が、伐倒木が動くにつれて変ることを予測してスリングの長さやスリングを固定する立木の位置を決める必要があります。初めて使用した人はロープだけの場合との違いを経験できたと思います。今後主催者が実施する活動には滑車を積極的に活用していきたいとのことですので、間伐指導を目指す未経験者は機会を見つけて是非経験されることをお奨めします。



掛かり木処理中

上左側の写真は滑車とスリングを使ってロープを掛け、伐倒に入ったところです。滑車の位置（動かない支点である立木からスリングを介しての滑車までの長さに注目）が、伐倒木が動いた後にどのように変化するか、しないか、写真からは判断しにくいかもしれませんが、写真中央奥の作業者が作っている受け口の方向から推測してみてください。そして、支点とした立木の位置とスリングの使い方（立木と滑車との距離）が正しいかを考えてみてください。机上のイメージトレーニングも結構有効ですのでクイズ感覚で色々な場面を想定して楽しみながらやってみては如何でしょう。



間伐作業中

(写真提供：堀江精三郎氏④・浦野 稔氏⑧)

自然観察部会 探鳥会

相模原貯水池



2012年1月9日(火)/下見 1月7日(土)

講師：3期 高橋 恒通様 7期 武本 弘次様

参加者：下見・小林保⑨、飯澤⑨、小林富⑩、松永⑪、尾崎一⑪、鳥飼⑪、上宮田⑪、

本番：友谷①、伊藤⑦、浦野⑧、黒澤⑧、野田⑧、波多野⑨、村井⑨、水津⑨、内野⑨、女川⑨、松山⑩、佐藤義⑪、湯浅⑪、沼田⑪、鳥飼⑪、上宮田⑪、平田⑫、小池⑫、高田⑫、渡辺朋⑫

上宮田 幸恵 (11期)

『美しいカモ類を中心に冬の里山の野鳥達を観よう!』

下見・本番ともに天候に恵まれ、そのタイトルに相応しい観察会になりました。配布されたガイドによれば相模原貯水池は県下でも有数のカモ類の越冬地。

時期になると約1200羽の野鳥達が立ち寄るといふ。

早速 目に飛び込んできたのは ~飛ぶ宝石 カワセミ! 皆一斉に自分のスコープを向ける、なんとなくそうなのだとわかるが、「はい、入りましたよ~」の講師の声で、セッティング頂いた拡大スコープをのぞかせていただく。姿、形、色、羽毛の一枚一枚までが鮮明に確認できる。コバルトブルーとオレンジの芸術的な色! 何度観てもため息がでる美しさで魅了される。

5月の誕生石: 五徳があるという宝石の翡翠(ヒスイ)は中国ではカワセミが名前の由来だそうだ。このカワセミ、巣穴をつくる様は野性的で、まず、垂直の土手に向かって突撃し、足場が出来たら嘴や足で一心不乱に横穴を掘るといふ。そんなひたむきさも、凜とした立ち姿から想像した。おつぎは小さな猛禽、百舌(モズ)のお出まし! 多くの野鳥の鳴き声を真似、メスの気を引く行為をするのだそうで、木々の枝に獲物を突き刺す行為はモズのはやにえとして知られるが、その光景は何とも奇妙なものです。雪国では突き刺した高さでその年の積雪量が分かるといふ。極めつけは新種発見かと興奮したカワセミの群れ! 図鑑やテレビ画面を通してしか知らなかった野鳥を確認できた感動!! ススメだとばかり思っていたがスコープを覗くことで全く違う野鳥だった事に気付いた感動!!

カウ、ダイギ、アサギ、材バソ、マガモ、カガモ、カモ、カヨカモ、ヒトリガモ、ハビ、カモ、キンクロハジロ、セグロカモ、ハセキレイ、ジョウビタビ、そしてチョウゲンボウ、と次々に姿を現す(目にする)、野鳥達。下見、本番共に20種以上が観察でき、まさに鳥のとりこです。

♂♀の特徴、渡りや習性、野鳥と植物、また人との関わりについて、野鳥達(自然界)から学ぶ多くの事に人が気付かねばならないこと、人としての役割についてなど貴重な講義も頂きました。

昨今の世界的な災害の前には野鳥達や小動物の異常な動きも方々で確認されているといふ。彼等はいち早く自然界の異変に気づき、他に知らせている事も確かなようです。

講師のお二人のように庭に水場を設け休日は珈琲を飲みながらスコープを覗く。散歩時にはスコープを携帯する。すぐにも実行してみたいとはいかがでしょうか。

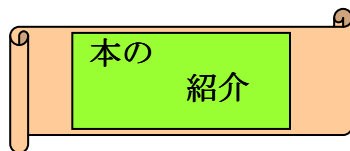
12期生の皆様からは「こんなに楽しいとは思わなかった」と嬉しい感想も頂きました。野鳥達の美の競演に浸った贅沢な2日間でした。(イラスト: 大塚晴子<広報部>)

森林セラピストの認定試験について

加藤 滋 <8期>

私は森林に出掛けると血圧が安定し活力を頂けるので、森林浴を医学的に検証し役たてる森林セラピーと活動に携わる森林セラピストに興味を抱いていました。23年度（第3回）森林セラピストの認定試験に挑戦して合格し、認定されましたので、参考迄にその試験内容と費用等について報告いたします。なお、森林セラピストは森林セラピー研究会が商標登録をしており、資格認定はNPO法人森林セラピー・ソサエティが行っています。

1次試験は森林セラピストに必要な基礎知識等が審査される筆記試験です。試験には森林セラピー2級と1級に合格する必要があります。2級は午前に、1級は午後行われ、費用は各級6,000円ですので、計12,000円でした。時期は6月上旬に行われ、合格発表は下旬になります。受験対策としてはNPO法人森林セラピー・ソサエティが出している検定テキスト3,000円+税と副読本（フィールド編）と（ヘルスケア編）合わせて4,000円+税を熟読することです。これらの本は認定後も必携の書となると思われます。2次試験は1次試験合格者に対し、DVDビデオ検定講習とフィールド実技講習が科せられ検定料は30,000円です。ビデオ検定は9月末送られてきた2巻のDVDを見て23年度の課題（あなたが森林セラピストを目指す理由）の小論文（1,000字以内）を10月初旬迄に提出することでした。フィールド実技講習は10月中旬から下旬に掛けて、1泊2日の研修が23年度は宮崎県日南市と山梨県山梨市で開かれ、私は山梨市の方に参加しました。講習はセラピストに求められること、リラクゼーション方法、基地でのアセスメント方法、インテーク面接の取り方、個別やグループメニューの作り方等を講義や訓練、フィールドでの観察、役割を変えての実習、グループ作業等を通しての研修でした。中身は非常に濃い物です。ただし、交通費や宿泊費は各自負担です。試験合格率は小論文を提出し、研修に参加された方はほぼ合格されたと思われるので、30%位と推測されます。11月合格通知を受けた人はNPO法人森林セラピー・ソサエティの助賛員として年会費5,000円を納めることにより森林セラピストとして2年間の認定を受け、森林セラピー基地・ロードに登録することが出来ます。しかし、全国に44ある森林セラピー基地・ロードをNPO法人森林セラピー・ソサエティは認定していますが、認定された森林セラピストの登録をそのまま受け入れてくれる訳ではありません。神奈川県にある厚木市は募集せず、山北町は検討中です。森林セラピストの活動範囲の拡大が望まれます。



加藤 滋<8期>



森林の中で生まれた人類の祖先がヒトとなって500万年が経過しているが、産業革命以降、多くの人が都会に住むようになるまで、人は大部分の期間を森林等の緑に囲まれた中で生活してきた。緑の少ない人口の集中した都市での緊張した生活、科学技術が発達し、複雑化した社会は人間の心身に疎外感やストレスを与え、ガン、脳卒中、糖尿病等の生活習慣病やアルコール依存症の増加に繋がっていると考えられる。

母なる森林の持つリラクゼーションと癒しの効果を疾病予防、健康増進、リハビリテーションや病気回復等の補完・代替療法として活用する医学的検証を日本が中心となって取り組んでいる。森林セラピーとは医学的エビデンス（証拠）に裏付けられた森林浴効果をいい、森林環境を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目指すものである。

「森林医学」は森林の持つ医学的な機能解明に2004年設立された森林セラピー研究会に集うた医学、薬学、森林学、環境学等、各分野の第一線の専門家が、森林浴関連の論文1100を集大成した書である。一方、「森林医学II」は森林セラピーの世界的動向と研究への協力、及び、2005年から実施している森林セラピー基地認定での生理実験やフィールド実験等で徐々に解明されている森林浴の医学的効果と今後の発展、森林セラピー基地のデザイン等がそれぞれの専門家により書かれている。森林セラピーを考慮した森林整備や活動を行う者には必読の書と思われる。（「森林医学」と「森林医学II」の出版社は朝倉書房で、それぞれの定価は6500円+税、4500+税）

活動短信

11/5～1/20

自然散策

- 日** 11月19日(土) 9時～12時 小雨
場 愛川ふれあいの村
参 横浜市立原小学校4年生167名
 10期の梅津先生他教師9名、他5名
イ L松本⑩、友谷①、足立④、宮本④、佐藤⑤、
 須長⑥、小野⑦、武者⑦、松本⑧、有坂⑧、
 村井⑨、松山⑩、大塚⑩、

生憎の朝からの小雨。屋内か屋外の当初予定の2時間散策(15班×1回)から想定外の1時間散策(12班×2回)にするかを直前に判断することを先生と決めました。時間がきましたが、小雨です。子供達には自然観察をさせてあげたい、安全面からも大丈夫と判断し屋外に決断です。自然観察路を散策する時間がとれないので村内を中心とした観察となりました。少ない時間、限られた場所、種類です。そこはベテランインストラクター達です。国産のスギ、ヒノキ、クヌギ、コナラ、シラカシからメタセコイア、ヒマラヤシダ、唐カエデといった外国産、姫リンゴ、ザクロ、カリンといった果実樹や、色づいたモミジやイチョウ、香ばしいカツラ、大きな葉のトチノキ等を巧みに教材に使い子供達に興味と知識を与えてくれました。想定外のケースでもベテランインストラクターには想定内なのでしょうね。最後は子供達とハイタッチをして別れ、子供達はダムに向かいました。

(記 11期 松本)

パートナー林保全活動

(間伐、自然観察、林内整備、他)

- 日** 11月20日(日) 9時～15時 晴れ
場 やどりき水源林 延寿の森、いやしの森
スタッフ 槐の会 當麻氏、軽部氏、大川氏他
参 槐の会会員 72名(申し込み56名)
県 自環保水源の森林推進課 金子、
イ L高崎④、友谷①、浦野⑧、草野⑧、高橋⑨

午前 延寿の森の間伐・アニマルヘッジ作り等2班
 いやしの森の間伐・経路整備等2班 計4班
 体制でインストラクター各班2名で林内整備の指導をした。延寿の森の間伐では、高度な技術が望まれ長年懸案になっていた木を周到な準備のもと安全確実に伐倒することが出来た。

午後 周遊Bコース2班・林道コース3班集体制で久しぶりに純然たる自然観察の指導をした。全般的には、晴天、紅葉にも恵まれ大変喜んで頂けた。一部、参加者の要求水準に対するプログラム設定等の工夫の必要性も話題になった。

感想 槐の会の参加者はリピーターが多いので、プログラムの工夫を特に心がけた。

癒し体験・水生生物観察・ネイチャーゲーム体験等である。久しぶりに純然たる自然観察を加えたが、今後は、又、癒し体験・ネイチャーゲーム体験等を盛り込み、素晴らしい自然を体感して頂きたい。(記 4期 高崎)

森林文化部会「森のクラフト教室」

～みやまの暮らし・寄体験2011～

- 日** 11月5日(土) 曇り
場 午前=寄自然休養林管理センター
 午後=宇津茂集会施設
参 武者⑦、米本②、白畑⑦、松村俊⑧、内野⑨、高橋⑨、

秋空の下、NPO 法人プロジェクト寄との共同開催による森のクラフト教室が行われました。

今年は、3,11を経験した事を受け、災害時で活かせる生活術を学ぼうと、午前中は一般参加者全員が竹筒でご飯炊きや、食器作りをしました。森林文化部会はそのお手伝い役で、鋸のひき方、ノミの使い方、ナイフの持ち方など説明しながら交流を楽しませて頂きました。昼食は各自手製の竹皿、お椀、箸で、ご飯や猪汁、鹿の焼肉など、寄ならではの味に舌鼓を打ちました。

午後はいつものクラフト教室、クラフト希望の皆さんは会場に入ると、並んだ色々の木の実に興味深く見入っていましたが、創り始めるとざわめきが消えていきます。制作に集中してきた証です。今回は新たにドイツトウヒを使った壁飾りも用意。お子さん、若い男性、年配の女性など寄体験らしい老若男女の参加者でした。

今年のような午前中、参加者、スタッフ総勢で取り組むプログラムは大勢の方々との交流でき、いい“体験”でした。

今後もこのような企画には積極的にお手伝いしていきたいと思います。(記 7期 白畑)

パートナー林保全活動(枝打ち)

- 日** 11月5日(土) 曇り
場 南足柄市塚原
参 富士通エフ・アイ・ピー(株)
 社員と家族 40名
イ L坂齊⑦、鈴木松⑤、鈴木孝⑥、伊藤⑦、金森⑩、

天気予報、雨は心配なし。我々は現場に早々9時過ぎに到着、支度完了、場所確認、作業内容の確認等を行い参加者を待つ。やがて、団体分乗バス到着、簡単な挨拶と紹介、富士通側による班分け、作業具配布、準備体操を行い、それぞれの持ち場に入る。現場は、集合場所のすぐ前、なだらかなやや傾斜のある10年樹の檜林、枝打ちの意義、枝打ちの高さの限界を示し、簡単に鋸の当て方、切り方、間違った作業手順に怪我の発生等簡略の説明を行いながら、体験に入る。小枝が多く作業は順調に推移、11時15分に作業終了、現場にて、作業前後の比較を観察、参加者一同、風が抜けた、林内すっきり、こんな作業だけでも森林の様相がすっかり変わった等の感嘆の声がしきりだった。

来年は、もっと大勢の人を誘ってみたい等のありがたい声もあり、道具の返還、挨拶、参加者、次の自主会場移動を見送り、貴重な体験作業を終了。

(記 5期 鈴木)

環境学習事業

日 11月21日(月) 9時半～15時 晴れ

場 小田原市早川 財産区

市 小田原市役所環境部環境政策課

スタッフ 宮城野 勝俣林業3名

参 小田原市立早川小学校 生徒35名

教師 4名

イ L高橋③、久保⑧、村井⑨、

◎小田原市長の“森林を手入れして、小田原の海でブリをはじめ魚介類が沢山獲れる様に”と言う構想の一環で、小学生対象の間伐体験学習の授業が行われた。今年が第一回目で早川小学校の5～6年生、35名と校長先生含め教師4名が携わった。

◎授業の内容は「自然に於ける森林の役割について」と言うテーマで高橋が準備したレジメを使ってレクチャーを約20分行った。(含 間伐の目的や意味) 続いて山中に入りプロの林業家が行う間伐のデモンストレーションを見学した後に、我々インストラクターは子供達に安全で正しい鋸の使い方を指導した。参加者達は伐倒した木(杉)の枝払いの体験学習を行った。全員怪我もなく枝払い体験を終えて昼食。

◎午後は伐倒、玉切り、枝払いをした木(杉)を学校が用意した竹へらを使って皮剥ぎ作業を行った。皮剥ぎされた木材は早川小学校に持ち帰り、ウッドデッキに利用の由。

<所見>

森林保全の必要性に理解の深い小田原市長在任中には、我々の会に多くの活動機会があると思われるので、企画の段階からコンタクトの必要性は大きいと思う。

(記 3期 高橋)

「平成23年度 川崎市里山ボランティア育成講座」

第4回

日 11月26日(土) 9時～17時

場 高津市民館(溝口駅前ノクティ2内)

参 一般市民による講座メンバー約20名、

(花と緑の交流会への参加者多数)

スタッフ 川崎市公園緑地協会職員

イ L金森⑩、安部⑤、清水⑧、小林⑩、

全6回講座の第4回目。花と緑の交流会に合わせて、本講座のブースを出すこととして、交流会に参加の各活動団体向けに道具の手入れ方法を教える。また、クラブ(書けない鉛筆)の体験コーナーには親子連れが多数押しかけブースは終日賑わっていた。以上の指導は、インストラクターだけでなく、講座のメンバーがイベントスタッフとなり体験した。花と緑の交流会全体としては、73団体が参加して、ミニ講座、特別企画展、舞台演劇、パネル展示、団体紹介、終了後に懇親会が持たれた。ミニ講座のOA機器設置・操作も担当した。

次回、第5回目は12月17日(土)麻生市民館岡上にて講義(里山の活用、原木しいたけづくり)、作業(コナラの間伐、玉切り、植樹後の整備)を予定する。

(記 10期 金森)

県民参加の森林づくり(間伐)

日 11月26日(土)

場 相模原市緑区鳥屋

参 一般県民 86名(男性73名・女性13名)

スタッフ 津久井森林組合1名

相模原市みどりの協会4名

財 内海課長、永島、看 田島

イ L塩谷⑦、友谷①、石原③、長谷山③、

宮本④、富樫⑥、伊藤⑦、小野⑦、

三浦⑧、鈴木⑨、園田⑨、川森⑩、柴⑩、

中村⑩、松永⑩、松本⑩、研 大橋⑩、

秋の晴天に恵まれ、宮ヶ瀬湖の美しい湖面を見ながら鳥居原園地での休憩を入れ現地へ。

オリエンテーション・ストレッチ体操を行い、今日の安全スローガンを全員で声を出し復唱した。今日の場所は急斜面なので、上部区画を受け持った班は滑り落ちそうな斜面での作業でした。又、初心者が多かったので特に安全面に気を使いました。

掛かり木の処理は周囲の力も借り作業を行った。食後1時間の作業があったが気を緩める事なく全員が良い汗を流しました。周囲の安全確認も出来無事終えました。帰りの車中は皆、心地良い眠りに入っていました。(記 11期 柴)

森林再生パートナー活動

日 11月29日(火)

場 足柄上郡山北町世附パートナー林

参 三菱倉庫(株) 役職員他社員32名

イ L齊藤⑥、山崎⑦、金森⑩、一重⑩、

第一回と言う事で楽しみにしていたパートナー林再生活動が台風15号による倒木の被害で間伐作業は無理と判断、事前に森林観察に変更していたが、当日も雨予報でした。小雨決行としマイクロバス2台で10時に世附に到着した頃は雨脚も強く真新しい看板を囲んで記念撮影がやっとであった。皆が思い思いに撮影する頃は更に強くなり、結局、午後のプログラムの「かわせみ荘」へ駆け込み11時より1時間、森林に関するレクチャーを行った。あらかじめ準備しておいた「未来につなぐ森づくりかながわ森林再生50年構想」「森林を育てよう」「保安林のしおり」「水は森林からやってくる」など全員に配布し概略程度講話をした。

今回は雨の為、土砂流失ならぬ計画や楽しみまでも流れてしまったが、現地で山崩れ森林の破壊など目の当りに見て現地の山林の脆さが感じとれたと思います。(記 6期 齊藤)

アサヒビールツアー（エアアドライブ）

- 日** 12月4日（日）晴れ
場 県立21世紀の森
参 文教大学3年生及び大学関係者70名
 アサヒビール・エアアドライブ各担当5名
イ L竹島③、山崎⑦、村井⑨、金森⑩、

抜けるような冬晴れに恵まれたこの日、70名の大学生を21世紀の森の森林散策に案内する。交通事情で到着時間が遅れ、散策の時間が1時間もない中で、森林館をスタートに、金太郎コース、バイパス、ドングリコースを四つの班で回る。21世紀の森は1名を除き初めての情報工学を専攻する学生達、見るもの、聞くものが初めての事が多かったようで、インストラクターの真剣な説明に新鮮な印象を心に刻んだに違いありません。今回の一番の成果は抜けるような空に映えた見事な紅葉に遭遇できたことかなと思えました。（記 3期 竹島）

県民参加の森林づくり体験講座

- 日** 12月10日（土）9時～12時
場 逗子市沼間
参 一般県民 42名 地元関係者 2名
財 永島、靱山、
県 竹富、枝廣、
イ L木島⑩、安部⑤、有田⑥、須長⑥、久保寺⑦、
 草野⑧、横田⑨、青木⑩、松山⑩、川森⑪、
 波多野⑪、

三浦半島の逗子と横須賀の市境に位置するスギ植林地の下刈、除伐、枝打を行った。当日は寒気団の南下により気温が低く霜も降りていたが、快晴に恵まれて活動日和であった。しかし数日前から雨が何回も降り地面は濡れて滑りやすい状況にあった。

森林づくり活動は主に県西部で行なわれているが、今回は東部の県民も参加しやすい三浦半島での開催であるため初心者への参加が多かった。そのため活動の目的・効果の説明とともに、作業方法指導と安全確保に注力して活動を進めた。

現場は急斜面が多く笹や雑木が高く茂り全く見通しが利かない状況だったが、枝打作業を終了した時には林内が見違えるように明るくなり、活動の成果をはっきりと確認できた参加者からは感嘆の声が上がっていた。

（記 10期 木島）

パートナー林保全活動（間伐・木工・自然観察）

- 日** 12月10日（土）10時～12時 晴れ
場 やどりき水源林
参 J X日鉱日石エネルギー（株）社員とその家族
 168名（大人142名、子供26名）
県 自環保水源の森林推進課 内田
イ L小野⑦、島岡③、竹島③、渡辺③、宮本④、
 加藤⑥、山崎⑦、野田⑧、小沢⑨、内野⑨、
 村井⑨、大塚⑪、

－2℃と冷え込むやどりき水源林で活動しました。間伐は55名が4班に分かれて、各班一本を切りました。自然観察は54名が4班に分かれて、Bコース巨木林周辺を散策して冬の植物を観察。

午前の短時間でしたが、楽しく安全に作業でき、良い活動となりました。（記 11期 大塚）

「平成23年度 川崎市里山ボランティア育成講座」
第5回

- 日** 12月17日（土）9時～15時
場 黒川青少年の森保全地区
 黒川青少年野外活動センター

- 参** 一般市民による講座メンバー25名
スタッフ 川崎市公園緑地協会職員 野牛⑧
イ L金森⑩、高崎④、安部⑤、清水⑧、小林⑩

全6回講座の第5回目。いよいよコナラの間伐、樹木の伐採方法についてインストラクターから講義を受ける。3班に分かれてコナラを伐り椎茸のホダ木用に長さ90センチに玉切りする。自生の松を伐り、裁断して所定の場所へ移動する。単に伐るだけでなく雑木林の役割や木の特性をインストラクターから学ぶ。昼食後、椎茸の植菌について講義を受ける。プロから聞いた情報とともに、時期や適した環境、イベントで実施する場合のコツについて関心を持って聞くことができた。前々回の宿題とした「里山の年間計画、イベント企画の立て方」について、班ごとに各自の内容を説明したうえで議論した。それぞれの想いを参加者同士が発言し合うよい機会となった。班の代表が全員の前で議論した内容を発表して終了。次回、第6回目は1月21日（土）川崎市緑化センターにて里山の話・椎茸のコマ打ちと閉校式を予定する。（記 10期 金森）

ふじの体験の森“やませみ”間伐体験

- 日** 1月20日（金）8時45分～13時
場 ふじの体験の森“やませみ”
参 相模原市立田名北小学校5年生89名
 教師他6名

- スタッフ** やませみ職員 河口他5名

- 財** 古館
イ L松山⑩、高橋③、渡辺③、佐藤⑤、伊藤⑦、
 小野⑦、武者⑦、渡部⑦、齊藤⑧、鈴木⑧、

前日までの記録的な晴天続きが崩れ、あいにくの早朝からの降雪。当初予定の間伐体験が中止になり児童たちはがっかりの様子。体験活動は雨天プログラムを体育館で、やませみ職員による全体説明から始まる。続いて9班に分かれてグループミーティング、インストラクターを囲み車座で『間伐の意義、森の働き、質問など』、たちまち持ち時間の35分経過。次に『小枝と木の実のクラフト』用意された材料を慎重に選び、それぞれ個性豊かな作品づくりに1時間奮闘。作品の講評会では、各班とも大いに盛り上がっていた。まとめの会をもって12時無事終了した。活動の時間配分、会場準備やクラフト材料の収集など、「やませみ」スタッフのご尽力に依り、児童たちには記憶に残る大切な一日となったであろう。

（記 10期 松山）

**やどりき水源林
ミニガイド**

2月のトピックス

銀世界の水源林で下見



12期生・赤崎さん初参加！！

3月の水源林

冬眠からさめて、森の案内人がスタートします。芽吹きの水源地林をご案内します。ご家族連れ、お友達を誘ってどうぞ。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

携帯：090-8580-5348

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



3/4(日)9時～16時・入場無料
雨天決行・場所：県足柄上合同庁舎グラウンド・私たちの会も丸太切り体験・どんぐり工作・グッズ販売に参加します。

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。＜広報全般についてのお問い合わせ＞

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

送り先

＜①電子配信担当＞ 森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784

Mail:shinrin.inst.denshihaishin@gmail.com

＜②メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mail:minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:2nahemi0818@jcom.home.ne.jp

原稿は随時受け付けてます。

編集後記

★この寒さで梅の開花も2週間遅れているとか？

これも皮肉なことに温暖化の影響？
(水口)

★こんな話を山で聞きました。
インスト、ボケヤスク病治りがたし、
転びと風邪ひき軽んずべからず。
(小沢)

★“春は名のみ風の寒さや”ご存知、早春賦の有名な歌詞だ。寒冬は、3月にずれ込み、雪国は、未だ雪降ろしに疲れる。他方、私たちの神奈川県は、毎日の晴天続き、北国の方は、毎日の天気予報の晴れマークにため息をつき、さぞかし、自問自答しながら、自然の不平等に耐えている。私たちは、この恵まれた郷土に、どれほどの感謝を覚えているだろうか人は自分だけで生きられない事、そして、自然の摂理の中に何もできない事実を考え、人と自然を繋ぐボランティア活動をテーマとする森林インストラクターとして、スコップで除雪をたった一杯でもどけるお手伝いのできない事実が有る事を
(鈴木松)

★寒風の中、鶴見川の野鳥観察をしています。しつこく観察しますと色々な発見があり楽しいです。オオバンはカモのようにも飛びますが、黒ずくめで水面を忍者の如く小走りで歩くのです。今朝は一羽しかいないヨシガモの撮影に成功。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

鈴木 朗 鈴木松弘 大塚晴子

第14回まつだ桜まつり開催中です。＜松田山ハーブガーデン＞

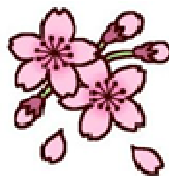


～3月11日まで

山麓の オアシス

～お食事処～

こまち



小田急
新松田駅
踏み切り際